



# ちゃんめろだより

第48号  
2017.8.2



白馬村・小谷村では、「ふきのとう」を方言で『ちゃんめろ』と言います

発行：長野県姫川砂防事務所（北安曇郡小谷村千国乙10307-3/電話0261-82-3100）

## ◆梅雨前線に伴う降雨（6月29日～7月5日）を振り返って◆

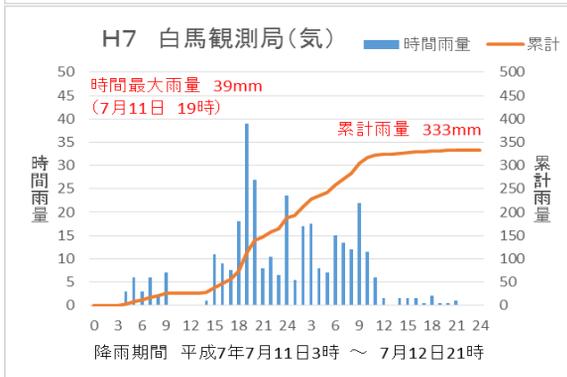
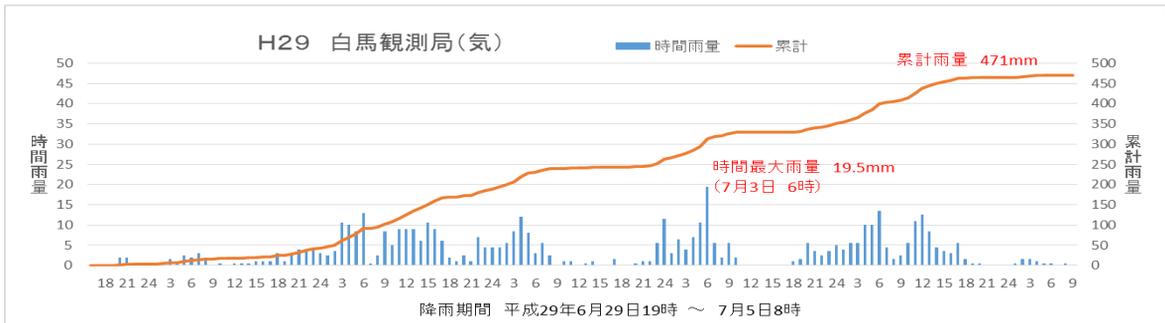
今回の梅雨前線の位置は22年前の平成7年梅雨前線豪雨に酷似していること、さらに台風3号の接近で、温かく湿った空気が流れ込み豪雨となることが予想され、事実降り始めからの累計雨量は全ての管内雨量局で約300mmを超える大雨となりました。ちなみに最大累計雨量は猿倉観測局(国)の987mm、最大時間雨量は八方山観測局(国)の41mmで河川を濁流が流れ落ちました。（写真参照）

下の白馬観測局(気)の平成7年と平成29年の雨量グラフを比べてみると雨の降り方に違いはありましたが、平成7年の梅雨前線豪雨を思わせるような強い雨が降り続き、いつ大きな災害が起こっても不思議ではない状況でした。

しかし、幸いにも土砂災害発生は皆無と言ってよいほどありませんでした。

当事務所は7月1日(土)0時55分の大雨警報発令から5日(水)の夕方の解除まで、延べ7班14名が水防当番として警戒体制に従事しました。

これからも台風などによる大雨が考えられますが、迅速で的確な警戒体制の確保に努めてまいります。…災害が発生しないことが何よりではありますが…



## 土砂災害危険箇所合同パトロールを実施しました

6月の土砂災害防止月間に合わせ、土砂災害危険箇所の合同パトロールを実施しました。土砂災害危険箇所の情報共有と緊急時の迅速な対応に役立てるため、また対策工法について専門家のアドバイスをいただくため、毎年実施しています。昨年までは、長野県砂防ボランティア協会の専門家の皆さんとのパトロールと、警察・消防など関係機関とのパトロールを分けて実施しておりましたが、今年度は総合的に判断する意味からこれら2回に分けていたものを統一して実施しております。

砂防ボランティアの皆さんから施設配置、緊急時の対応について適切なアドバイスをいただき、事業計画を立案する上での貴重なご意見をいただき、関係機関の皆さんと土砂災害危険箇所の情報共有がなされました。

(参加機関：長野県砂防ボランティア、国土交通省松本砂防事務所姫川出張所、中信森林管理署、大町警察署、北アルプス広域消防北部消防署、北アルプス地域振興局、白馬村、小谷村、姫川砂防事務所)

海道沢

現在、3基目の砂防堰堤に着手



金山沢（国交省）



## 砂防施設周辺の草刈りを行いました



7月14日（金）、小谷村の黒川沢と西親沢で、砂防施設周辺の草刈りを行いました。この活動は、平成17年9月1日から県が実施する「砂防施設等維持管理ボランティア活動支援事業」として行っているものです。

この日は、姫川建設業協会から18名、当所から9名の計27名が集合し、雑草が繁茂した通路などを丁寧に整備しました。他にも13団体がこの事業を活用してボランティア活動に取り組まれています。砂防事業へのご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

## 小谷村曾田地区を砂防事業功労者として表彰しました



長野県治水砂防協会姫川支部は、7月18日（火）、白馬アルプスホテルにおいて平成29年度定期総会を開き、65年の長きにわたり、砂防施設の維持管理向上や砂防事業の推進に多大な貢献をされた小谷村曾田地区（代表 砂防委員長 下原徳明氏）を砂防事業功労者として表彰しました。曾田地区の皆様、おめでとうございます。

## 県砂防課長が管内現地調査を実施しました

7月19日（水）、県砂防課の田下課長が当事務所管内の事業箇所での現地調査を行いました。当日は天候に恵まれ、小谷村の中でも秘境と呼ばれる？濁沢や前沢まで、無事に調査をすることができました。

小谷村では濁沢最上流のワイヤーネット式堰堤の土石流（本年7月発生）の捕捉状況を確認したほか、火山砂防北湯原沢、前沢地すべりなど「これぞ姫川砂防」といった迫力のある箇所を調査し、白馬村では、重要伝統的建造物群保存地区内で実施を予定している砂防事業箇所や全国的にも実施箇所の少ない雪崩対策事業箇所を調査しました。

田下課長をはじめ、県砂防課職員からは、箇所ごとの特性を踏まえた技術的アドバイスがありましたので、今後の事業執行の参考にさせていただきます。

濁沢 ワイヤーネット式堰堤



地すべり八方岩 集水井施工箇所



## 現場紹介No,2

# 柵池沢 砂防堰堤工事 (北安曇郡小谷村 柵池高原スキー場内)

### ■本事業について

柵池沢は柵池高原スキー場「白樺ゲレンデ」と「チャンピオンゲレンデ」の間に位置し、流域面積約【1.2km<sup>2</sup>】と大きな集水域を持つ沢です。積雪が多く、標高の高い場所のため、雪解けと梅雨の降雨が重なり大きな出水となる時もあります。沢筋は、過去の土砂流出により大きな転石や粘性土が堆積しており、今後も土石流の発生が懸念されています。

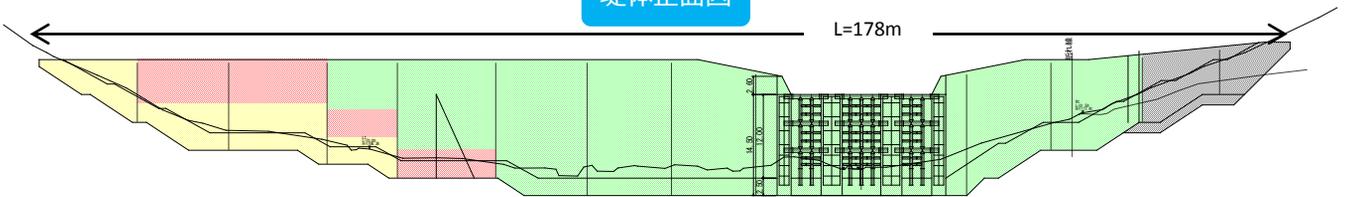
現在の計画では、平成32年までに既設堰堤の上流に“鋼製スリット式堰堤”を1基整備予定であり、H25年から堤体工事に取り組んでいます。



### ■現在の工事について

平成29年4月より右岸側【V=1,433m<sup>3</sup>】の堤体Co打設を進めております(下図：赤着色)。堤体がとても長く、天端長が【L=178m】、コンクリートの量で約【V=13,000m<sup>3</sup>】になります。冬期は2m以上の積雪に見舞われるため、半年の間に効率よく工事を進められるよう工事関係者で調整しています。

堤体正面図



### ■現場の様子(ドローン撮影)

今回、この現場紹介に向けて、私たちの工事が「どんな場所で」「どのように」行われているか、知ってもらふ材料として、今話題の【ドローン】を使った空中撮影を行ってみました。

写真は、柵池沢の上流から、下流の柵池高原スキー場ゲレンデや、宿泊施設街を写しました。

